

2017年度日本線虫学会大会（第25回大会）のお知らせ

大会事務局

1. 大会開催にあたり事務局から

本年度は口頭 31 題、ポスター9 題の合計 40 題の講演申し込みがありました。まずは感謝申し上げます。地方開催ということで講演数の確保が心配でしたが杞憂でした。ポスター数が若干少なめですが、もう少し増えることを期待しています。ゆったりとした会場でポスターに関係あることないこと、フリーなディスカッションの場となれば幸いです。また、初日の「シロシストセンチュウ」シンポジウムについては、農研機構北海道農業研究センターとの共催で公開シンポとなりました。本シンポジウムのみは、会員・非会員にかかわらず、無料で参加できます（申込方法は9. を参照ください）。お近くに興味を持つ方がいましたら、ぜひ積極的に宣伝してください。また、会員参加者の皆様は最大 100 名の一般参加者と会場を共にすることになります。学会員と一般参加者との様々な交流が生まれることを期待します。皆様のお越しをお待ちしています。

* 事前申込延長のお知らせ

事前申込期限までに予定が決まらなかった方に朗報です。懇親会会場にまだ余裕があるため、事前申込受付を9月8日（金）まで延長いたします。

大会参加費 一般 3,000 円 学生 1,000 円

懇親会費 一般 6,000 円 学生 3,000 円 にて参加可能です！

希望者は下記の大会口座（郵便振替口座）に期限までに送金願います。なお、振込用紙は同封しておりませんので、各自郵便局備え付けの用紙等をご利用ください。学生参加費の適用には、振替用紙の通信欄に指導教官のサインがあることを要件とします。

加入者名：日本線虫学会第25回大会事務局

記号番号：02790-3-49571

2. 開催日程

2017年9月20日（水）～22日（金）

◇9月20日（水）

9:00～12:00 : 評議員会、編集委員会

13:00～13:45 : 総会

14:00～17:30 : 公開シンポジウム「発生確認から2年、ジャガイモシロシストセンチュウ対策
研究の最前線」

18:00～20:00 : 懇親会

◇9月21日(木)

9:30～11:45：一般講演

13:30～14:30：ポスターセッション

14:30～17:30：一般講演

◇9月22日(金)

9:30～12:15：一般講演

3. 大会会場

かでの2・7北海道立道民活動センター

大会議室（4F：一般講演）

510会議室（5F：評議員会、編集委員会、休憩室、ポスター会場）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目

・JR札幌駅南口：徒歩13分

・地下鉄さっぽろ駅（10番出口）：徒歩9分

大通駅（2番出口）：徒歩11分

<http://homepage.kaderu27.or.jp/>

4. 懇親会会場

ホテル札幌ガーデンパレス

札幌市中央区北1条西6丁目

TEL：011-261-5311

大会会場より南東へ徒歩4分

<http://www.hotelgp-sapporo.com/>

（末尾にアクセスマップ掲載）

5. 当日参加受付

事前申し込みされていない方は、当日会場前受付デスクにて参加受付いたします。

大会参加費 一律4,000円

懇親会費 一律7,000円（会場に余裕があった場合に限る）

なるべく釣り銭のないようご用意ください。

なお、公開シンポジウムのみ参加される方は8. を参照ください。

事前申込をされた方には受付で、ネームプレート、領収書、講演予稿集等を配布します。

6. 大会プログラム

9月20日(水)

13:00~13:45 総会

14:00~17:30 公開シンポジウム「発生確認から2年、ジャガイモシロシストセンチュウ対策
研究の最前線」

14:00 開会

14:00 あいさつ・趣旨説明 奈良部 孝 (農研機構北農研)

(座長: 岩堀英晶)

14:10 S1 ○久井潤也¹ (¹ 横浜植物防疫所) 北海道におけるジャガイモシロシストセンチュウの発生範囲特定調査の概要

14:40 S2 ○串田篤彦¹・酒井啓充¹・奈良部孝¹ (¹ 農研機構北農研) ジャガイモシロシストセンチュウの高精度検出技術の開発

15:10 S3 ○小野寺鶴将¹・伊藤賢治²・奈良部孝²・相場勝³ (¹ 道総研北見農試・² 農研機構北農研・³ 網走農改普及セ) 土壌燻蒸剤処理と捕獲作物栽培によるジャガイモシロシストセンチュウの防除効果

15:40 休憩

16:00 S4 ○谷野主持¹ (¹ 北大院理) ぶ化促進物質の全合成とジャガイモシロシストセンチュウ類防除へ向けた実用化研究

16:30 S5 ○浅野賢治¹ (¹ 農研機構北農研) ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性バレイシヨの探索と品種育成の現状

17:00 パネルディスカッション

17:30 閉会

18:00~20:00: 懇親会

9月21日(木)

9:30~11:45 一般講演

(座長: 長谷川浩一)

9:30 O01 ○小野雅弥¹・早川洋一¹・濱 洋一郎¹・吉賀豊司¹ (¹ 佐賀大)
Caenorhabditis elegans の体表脂質による昆虫血球の活性化抑制

9:45 O02 ○奥村美紗子^{1,2}・Martin Wilecki¹・Ralf J Sommer¹ (¹Max Planck Institute for Developmental Biology・² 広島大学理学研究科) *Pristionchus pacificus* のセロトニン神経回路による捕食行動の制御機構

10:00 O03 ○神崎菜摘¹ (¹ 森林総研関西) *Seinura* sp. の人工培養と捕食行動の観察

(座長：田中 克)

- 10:15 O04 ○澤之向大希¹・佐藤一輝²・菊地泰生³・長谷川浩一¹ (¹中部大応用生物・²理研 CSRS・³宮崎大医) 土壤線虫 *Oscheius* sp. KHA501 から分離された細菌 *Serratia marcescens* bKHA501 の病原性
- 10:30 O05 ○田中龍聖¹・Afrin Tanzila¹・菊地泰生¹ (¹宮崎大) イチジク果実内部に生息する線虫 *Caenorhabdits* sp. 34 の生態特性
- 10:45 O06 ○浴野泰甫^{1,2}・吉賀豊司^{1,2}・竹内祐子³・神崎菜摘⁴ (¹鹿児島連大・²佐賀大・³京大・⁴森林総研関西支所) *Deladenus nitobei* 及び *Parasitaphelenchus* sp. の角皮微細構造の性的二型と行動様式との関係

(座長：田中龍聖)

- 11:00 O07 ○小池悠斗¹・新屋良治²・長谷川浩一¹ (¹中部大学応用生物・²明治大学農学) 日本各地で様々な糞虫から分離される卵胎生線虫について
- 11:15 O08 ○小澤壮太¹・Rina Sriwati^{1,2}・長谷川浩一¹ (¹中部大学応用生物・²Syiah Kuala Univ.) インドネシア・バンドアチエ市における衛生害虫ワモンゴキブリとその寄生性線虫の多様性
- 11:30 O09 ○北上雄大¹・松田陽介¹ (¹三重大院生資) 海岸と内地に成立するクロマツ林分の線虫群集の構造特性の比較

11:45~13:30 休憩

13:30~14:30 ポスターセッション 13:30~14:00 奇数番号コアタイム

14:00~14:30 偶数番号コアタイム

- P01 垣内京香¹・杉山 広²・○浅川満彦¹ (¹酪農大獣医・²国立感染研) ニホンジカに寄生するオンコセルカ亜科糸状虫類について
- P02 ○大和田恭子¹・新井智博²・青井 透¹ (¹群馬高専・²九大院) 未利用バイオマス資源を利用した土壌改良資材による植物寄生性線虫被害防除
- P03 ○原口俊輔¹・吉賀豊司¹ (¹佐賀大学) 菌食性線虫 *Aphelenchus avenae* を用いたニンニクの *Fusarium oxysporum* とイモグサレセンチュウ抑制の可能性
- P04 ○細井昂人¹・森谷 渉¹・吉田ひかり¹・近藤竜彦²・佐々木康幸¹・矢嶋俊介¹・伊藤晋作¹ (¹東農大バイオ・²名大院生命農学) ダイズシストセンチュウの孵化・誘引物質の探索
- P05 ○岩堀英晶¹・上杉謙太²・齊藤猛雄³ (¹龍谷大農・²農研機構九州沖縄農研・³農研機構野菜花き部門) ネコブセンチュウ抵抗性ナス育種素材の探索 (1)
- P06 ○岡田浩明¹・荒城雅昭¹・関本茂行^{1,2} (¹農研機構中央農研・²現：横浜植防) ホオズキ種間 (*Physalis* spp.) におけるサツマイモネコブセンチュウ増殖性の違い

P07 ○北上雄大 1・松田陽介 1 (1 三重大院生資) 海岸と内地に成立するクロマツ林分の線虫群集の構造特性の比較 (=一般講演 O09)

P08 ○浜口昂大 1・長谷川浩一 1 (1 中部大学) マリーゴールドが分泌する下皮浸透性酸化ストレス誘導物質 α -terthienyl の殺線虫作用 (=一般講演 O11)

P09 ○幾代以子 1・石黒秀明 2・長谷川浩一 1 (1 中部大学・2 石黒植物園) 日本における *Phlox subulata* に枯れ症状をもたらす病原体の解明 (=一般講演 O13)

14:30~17:30 一般講演

(座長: 上杉謙太)

14:30 O10 岩満 颯・江上明里・上田敏久・○吉賀豊司 (佐賀大学) O-ベンジルチロシンが線虫に及ぼす影響

14:45 O11 ○浜口昂大・長谷川浩一 (中部大学) マリーゴールドが分泌する下皮浸透性酸化ストレス誘導物質 α -terthienyl の殺線虫作用

15:00 O12 ○Yuji Oka (Gilat Research Center, ARO, Israel) Response of *Xiphinema index* and *Longidorus* sp. to fluensulfone and "old" nematicides

(座長: 酒井啓充)

15:15 O13 ○幾代以子¹・石黒秀明²・長谷川浩一¹ (1 中部大学・2 石黒植物園) 日本における *Phlox subulata* に枯れ症状をもたらす病原体の解明

15:30 O14 ○上杉謙太¹・安達克樹¹・服部太一郎¹・村田岳¹・荒川祐介¹・鈴木崇之¹ (1 農研機構九州沖縄農研) 種子島のサトウキビ圃場における植物寄生性線虫相

15:45~16:00 休憩

16:00 O15 ○立石 靖¹・植原健人¹ (1 農研機構中央農研) 植木及び盆栽で発生するオオハリセンチュウを検出可能な種特異的 PCR プライマー

16:15 O16 ○百田洋二¹・藏之内利和² (1 元農研機構・2 農研機構) 生垣・植木のネコブセンチュウについて

(座長: 武田 藍)

16:30 O17 ○植原健人¹・立石 靖¹・古澤安紀子²・中保一浩³ (1 農研機構中央農研・2 群馬農技セ・3 農研機構野菜花き部門) トマトへのネコブセンチュウ・青枯病菌の複合感染と高接ぎ木の有効性

16:45 O18 ○田淵宏朗¹・小林 晃¹・門田有希²・岸本和樹²・田原 誠²・岡田吉弘¹ (1 農研機構九州沖縄農研・2 岡山大学) サツマイモネコブセンチュウに対する 3 種類の抵抗性評価指標の比較

17:00 O19 ○村田 岳¹・上杉謙太¹・植原健人²・齊藤猛雄³ (¹農研機構九沖農研・²農研機構中央農研・³農研機構野菜花き部門) ナス近縁種 2 系統の台木適性と圃場栽培におけるネコブセンチュウ密度への影響

17:15 O20 ○門田康弘¹・佐藤一輝¹・市橋泰範^{1,2}・植原健人³・岩堀英晶⁴・槇 紀子¹・鈴木孝征⁵・白須 賢¹ (¹理研 CSRS・²JST さきがけ・³農研機構中央農研・⁴龍谷大・⁵中部大) ネコブセンチュウの病原性機構と植物の免疫機構の解明

9月22日(金)

9:30~12:15 一般講演

(座長:竹内祐子)

9:30 O21 ○小坂 肇¹・高畑義啓¹・田辺博司²・北島 博³ (¹森林総研九州・²SDS バイオテック・³森林総研) 2 種昆虫病原性線虫のハラアカコブカミキリに対する殺虫効果

9:45 O22 ○相川拓也¹・升屋勇人¹ (¹森林総研東北) カラフトヒゲナガカミキリから検出された *Bursaphelenchus doui*

10:00 O23 ○前原紀敏¹・神崎菜摘²・相川拓也¹・中村克典¹ (¹森林総研東北・²森林総研関西) ヒゲナガカミキリのマツノザイセンチュウ保持能力

(座長:浴野泰甫)

10:15 O24 ○秋庭満輝¹・神崎菜摘¹・大澤正嗣² (¹森林総研・²山梨県森林研) 日本におけるニセマツノザイセンチュウ 2 亜種が存在

10:30 O25 ○田中 克^{1,2}・相川拓也³・竹内祐子⁴・福田健二¹・神崎菜摘⁵ (¹東大院農・²学振・³森林総研東北・⁴京大院農・⁵森林総研関西) マツノザイセンチュウ分泌物の分散型 III 期誘導活性

10:45 O26 ○Ryoji Shinya^{1,2}・Koichi Hasegawa³・Igor Antoshechkin²・Taisei Kikuchi⁴・Paul W Sternberg² (¹Meiji Univ.・²California Institute of Technology・³Chubu Univ.・⁴Miyazaki Univ.) Stochastic and genetic regulation of sex determination in the *Bursaphelenchus nematodes*

(座長:植原健人)

11:00 O27 ○武田 藍¹・豊田剛己² (¹千葉農林総研・²東京農工大) 千葉県内のダイズ・えだまめ圃場におけるダイズシストセンチュウ発生状況

11:15 O28 ○相場 聡・浅野賢治 (農研機構北農研) ジャガイモシロシストセンチュウ寄生性検定のための接種条件と感受性基準品種の検討

11:30 O29 ○酒井啓充¹・串田篤彦¹・伊藤賢治¹・奈良部 孝¹ (¹農研機構北農研) ジャガイモシロシストセンチュウ圃場個体群間の類縁関係推定に向けたミニサテライト DNA の利用

(座長：村田 岳)

11:45 O30 ○奈良部 孝¹・副島 洋²・眞木祐子²・岩倉 優³・谷野圭持³・串田篤彦¹ (¹ 農研機構北農研・² 雪印種苗(株)・³ 北大院理) 合成および天然由来ふ化促進物質のジャガイモシロシストセンチュウ密度低減効果

12:00 O31 ○串田篤彦¹・岩倉 優²・谷野圭持²・奈良部 孝¹ (¹ 農研機構北農研・² 北大院理) ふ化促進物質ソラノエクレピン A に対するジャガイモシロシストセンチュウの反応特性

7. 発表者へのお願い

本ニュースに記載致しましたプログラム等に不備がないかをご確認いただき、何かありましたら大会事務局までご連絡をお願いいたします。

一般口頭発表は 1 題あたり 12 分の発表 + 3 分の質疑応答、計 15 分以内を予定しております。進行に影響が出ないよう、時間以内でのご協力をお願いいたします。

PC プロジェクターの利用環境は Windows7 または 10、対応ソフトは Microsoft PowerPoint 2016 を予定しています。受付にて発表ファイルを受け取りますので、できるだけ早にご提出および動作確認をお願いいたします。ファイル名は「01 串田」というように、発表順番と発表者名を記録してご提出ください。その際、CD/DVD にて受付いたします。大会が終了したのち、コンピュータに記録した皆さんの発表ファイルはすべて消去いたします。

ポスター発表の場合は、A0 サイズ (841× 1189 mm) を基本に、そのサイズに収まるように作成してください。なお、ポスターを貼り付ける道具は大会事務局で用意します。ポスター会場は初日 (20 日) 12:30 ころ (評議員会終了後) から開放しております。

口頭発表、ポスター発表とも、本大会の講演要旨は、日本線虫学会誌第 47 巻第 2 号に掲載する予定となっております。**要旨の修正が必要な場合は、9 月末日までに下記宛に修正した原稿をお送りください。**

〒062-8555 札幌市豊平区羊ヶ丘 1 番地
北海道農業研究センター生産環境研究領域内
日本線虫学会誌編集幹事 伊藤賢治

TEL: 011-857-9247

E-mail: kenjiito * affrc.go.jp (メール送信時は * を @ に変えてください、以下同様)

8. 公開シンポジウム申込方法

大会参加者以外の一般の方を対象に、先着 100 名まで無料にて参加受け付けます。一般講演・ポスター講演に参加される方は別途参加費をお支払いください (5. 参照)。

本シンポジウムのみ参加希望者は、氏名 (ふりがな)、所属、連絡先 (メールアドレスまたは電話番号) を記入の上、メールにて 9 月 14 日 (木) までにお申し込み下さい。

宛先: senchu_sympo * ml.affrc.go.jp (折り返し受付メールを送信します)

9. 大会事務局

農研機構 北海道農業研究センター 生産環境研究領域 線虫害グループ

〒062-8555 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地

TEL : 011-857-9247 FAX : 011-859-2178

事務局長 奈良部 孝 E-mail: narabu*affrc.go.jp

かでの2・7（大会会場）及び懇親会会場（ガーデンパレス）へのアクセスマップ

